

令和7年2月18日

世田谷区立千歳小学校

校長 石川 淳様

世田谷区立千歳小学校 学校関係者評価委員会

委員長 中西 茂

令和6年度 千歳小学校 学校関係者評価委員会報告

令和6年度の学校関係者評価をとりまとめましたので、以下のとおりご報告します。

コロナ禍がとりあえず収束したように見えても、インフルエンザも含めた感染症への対応は悩ましいものであります。また、やむを得ないことは言え、今年度は給食室の改修工事でも教育活動が影響を受けるご苦労の多い1年だったと思います。その中で、教職員の皆様にまず敬意を表すとともに、この評価を通して千歳小学校の教育活動がより充実することを心から願っております。

◆学校関係者評価とは

【目的】

- (1) 学校のよりよい教育活動の実現のため、児童・保護者・地域の意見を反映させる。
- (2) 児童・保護者・地域のアンケート結果などから課題を明らかにする。
- (3) 保護者・地域・学校の三者が一体となって子どもを育てることにつなげる。

【方法】

- ① 本校教職員の自己評価、児童・保護者・地域へのアンケート結果、授業参観や学校行事への参加、学校側へのヒアリング、今年度改善策の実行結果などから評価・考察する。
- ② 本校の「教育目標」「重点目標」「学校経営の基本方針」などを踏まえ、教育活動の改善、継続の仕方について提案する。

◆アンケートの集計結果

【回収人数と回収率（カッコ内は令和5年度の回収率ないし回収人数）】

児童数 756人 90.2% (93.4%)

保護者 577人 68.6% (70.7%)

地域 17人 (22人)

教職員 29人 (35人)

※アンケートはA（とても思う）、B（思う）、C（あまり思わない）、D（思わない）、E（分からぬ）の5段階評価とし、以下の分析では、原則としてA+Bの肯定的回答の数値を示しています。なお、アンケートには世田谷区共通の項目と、学校独自で設定する項目がありますが、児童アンケートは昨年度と同様、学校独自項目だけを全学年対象とし、区共通項目については5、6

年生だけを対象としました。区教員委員会から求められているのは高学年の児童だけであり、学校の負担を少しでも軽くするためです。以下のアンケート項目のうち、「学校独自項目」とことわっていない項目はすべて「世田谷区共通項目」となり、対象児童は5、6年生だけになります。

保護者の回収率はほぼ横ばい

昨年度の保護者アンケート回収率は70.7%でしたので、令和6年度の68.6%は、やや数値は下がったもののほぼ横ばいと見ていいと思います。初めて「すぐーる」を使った令和5年度の26.1%という数字が衝撃的でしたので、今年度も回収率を上げる努力を重ねていただいた結果だと判断します。皆様のご協力に感謝申し上げます。

重点目標は概ね達成

まず自己評価書から、学校が掲げた重点目標「『主体と協働を併せ持ち伸びる千歳っ子』の育成」に基づいて設けた数値目標と、児童のアンケート結果を見ていきます。

- ① めあてや目標（ゴールイメージ）を達成するために、あきらめずに粘り強く取り組むことができる」80%以上
→全学年で目標達成
- ② 「自分で課題を見付けて、解決していく学習が楽しい」75%以上
→3・4年生で79%と目標を達成した。もっとも低い6年生は65.9%
- ③ 「学習したことから自分は何ができるかを考え、新しいことに取り組むことが好きだ」70%以上
→6年生が65%と最も低かったが、他の学年は目標達成
- ④ 「自分らしさを大切にし、他の友達の良さも大事にしている」90%以上
→全学年で目標達成。しかも5・6年生で95%台

以上のような結果でした。高学年でやや低い傾向が出るのは、学習内容が難しくなることや思春期を迎えることでやむを得ない面もあると思います。

一方で、④ですべての学年が90%台を達成しているのは画期的なことだと思います。学校からは、今年度は特別活動に特に力を入れているという説明を受けました。その効果が現れたのだとしたら、ぜひ、今後も継続していっていただきたいです。「学校生活は楽しい」「学校が好き」の設問に対して、それぞれ、90.8%（前年度比4.9ポイント増）と84.2%（同9.7ポイント増）が肯定的な回答をした点も特筆に値します。

保護者により丁寧な説明を

一方で、自己評価書の「重点目標を達成するための基本方針」を読むと、常に起こりうる

ことではありますが、児童と保護者に数値のギャップがみられる項目があります。

児童アンケートの肯定的評価が「自分の生き方や将来のことについて考える授業がある」で 78.8%（同 5.2 ポイント増）、「目標をもち、その実現に向けて努力している」で 81.5%（同 2.4 ポイント増）なのに対し、保護者のアンケートの肯定的評価は、「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている」が 54.3%（同 1.6 ポイント増）、「本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している」が 62.9%（同 1.2 ポイント増）でした。保護者も昨年度よりは数値は上がっているとは言え、児童の肯定的回答との差は大きいままです。

キャリア教育の一環で国が進める「キャリア・パスポート」を本校でも積極的に活用し始めていますが、そもそも「キャリア教育」という言葉に保護者の多くがもつイメージが職業教育に近いために、保護者にこの仕組みの理解が進んでいないことが、児童とのギャップの数値につながっている可能性があります。

また、キャリア教育にしっかりと取り組まれているなら、「区立中学校に関する情報が提供されている」という設問に対する児童の肯定的評価が 46.9%（同 2.5 ポイント減）になってしまるのはなぜかという見方でもできるでしょう。現実には 6 年生には中学校での体験授業の機会も設けられるなど、交流の機会があってもこの数値です。委員からも部活動の体験など、もっと関わりを増やすとしてもいいのではないかという声があがりました。

国全体の教育改革が急速に進んだことで、ひと昔前の学校教育にはなかった言葉も「キャリア・パスポート」だけではありません。今回の自己評価書をみても、「AI ドリル」「自由進度学習」「教育 DX」といった、保護者には必ずしも馴染みのない言葉が登場しています。それだけに、保護者へのより丁寧な説明が、これまで以上に求められているのではないかでしょうか。

タブレット活用の悩ましさ

また、一人一台支給されているタブレット端末をどう取り扱うかも課題のひとつです。自己評価書では、児童の肯定的評価が「私は、学習用タブレットを上手に使い学習を進めることができる」で 88.0%（同 2.9 ポイント増）となり、「タブレット端末の活用に関する指導が浸透し、児童がスムーズに学習を進めるスキルを身に付けつつあることを示している」と評価しています。

一方で保護者は「本校の児童は、学習用タブレットを効果的に活用し、学習を進めている」の肯定的回答が 65.7%（同 8.3 ポイント減）でしかありません。今年度に限らないことではありますが、評価委員会の場でも依然として家庭での子どものタブレットの使い方については悩ましいという発言が相次ぎました。永遠のテーマかもしれません、この点も保護者とともに考えていただきたいです。

地域との関係、より強化を

もう一点は地域との関係です。自己評価書はアンケート結果から、「地域の学校に対する関与や認識が弱まっている可能性がある」と分析しています。ただ、地域向けのアンケートは人数が限られることから、あまり数値に敏感になる必要はないと思います。ただ、地域が学校教育に関わる機会を増やすことは、今後の学校運営には欠かせませんので、より充実を図ることを望みます。

また、保護者・地域住民の声をよりしっかりとすくい上げるために、地域住民への記述式アンケートや保護者からの委員公募もご検討いただければ幸いです。

評価委員の声

最後に、今回も個々の評価委員からの声をひと言ずつ紹介して、学校関係者評価報告書の締めくくりとします。

「アンケートを拝見する限り、子供たちの目標や、目的に対しての道筋をそれぞれが自主的に考え行動しているように感じました。壁に当たったとしても自らが乗り越えることができれば幸いですが、我々保護者も良きアドバイスが出来るようこれからも見守っていきたいと思いました」（新井）

「千歳小学校の教職員は児童に対して学習や生活場面等で丁寧に対応している事や学校運営委員、学校協議会メンバー、PTA とおやじの会等が協力連携している素晴らしい小学校だと思っています。評価内容の結果から見えてきた千歳小学校の良さと課題は保護者や地域の協力者には見えにくい部分もあるので、児童館で学校の様子などを地域の方伝えていければと考えます。ぱる児童館は学校や地域の皆様と一緒に考え、子どもたちの健やかな成長につながることをこれからも実践していきます。どうぞよろしくお願いいいたします」
(五十嵐)

「アンケートの結果より、児童の学校に対する意識が上がっていたのはとても良い点だと思いました。特に『学校が好き』のポイントが大きく向上していたのは、先生方のお力が大きく反映されており、これから学校が児童にとって素晴らしいとなると強く感じました。一方で、地域においての学校の位置付け、役割といったものが低下している点は、注力していた点でもある中で下がったのは残念であります。学校だよりや地域への働きかけを効率的かつ効果的に実施頂き、先生方の負担を増やさずに、今回上がった児童からの評価が、地域や保護者へ伝わるようにしていくようにする必要があると思います。学校は地域の中の核であり、そこでの理解、評価が高くなれば、学校のみの頑張りでなく地域全体で、児童を守

る活動を盛り上げていけると思います。来年度はここに再注力していく必要があると感じました」(石田)

「今年も保護者アンケート回収・集計まで無事終了し、御尽力いただきました先生方・関係者の皆様の活動に感謝いたします。また私たちのような地域としてかかわりを持つ住民から意見を反映していただきありがとうございます。懸案でありました回収率も高い数値で維持された点は、よかったですとかと思われます。また学校生活は楽しいなど児童からの回答が大幅にポイント上昇しているのは先生や関係者の努力の賜物と存じます。一方で保護者の回答がポイント上昇になっていないのは、保護者自身が千歳小の良さを実感できていないからだと思います。私は何人もの千歳から転校していったおやじの会メンバーと会話する機会がありましたが皆口をそろえて千歳小は良かったと言っています。何が良かったのか? それは親同士のつながりや児童の積極性が千歳小にはあると話す方々が多かったとのことです。このような内容を実感できる交流を児童・学校(先生方等)・保護者・地域と検討・継続していただければと思いますし、またそのお手伝いができればと考えます。あと、提案ですが、この地に来たばかりか、1年生に入学したばかりの保護者が委員になっていただけるといいと思います。新規メンバー獲得への積極的な勧誘を希望します」(櫻井)

「様々な活動が通常に戻りつつあり、子供達が活発に充実した小学校生活を送れる様になっているのは先生方のご尽力のおかげだと思います。子供達が地域の中で安心して健やかに育まれる環境作りのためにも学校を地域で支えるお手伝いをしていきたいです」(島藤)

「1人1台タブレット端末が普及して以降、学校は激変していると思います。その様子が学校の自己評価書からも読み取れました。本文にも書きましたが、ぜひ一つひとつの新しい言葉を、保護者にも子どもたちにもわかりやすく説明する努力をお願いしたいです」(中西)

「今年度のアンケート結果で印象に残った事は千歳小ビジョンのひとつである『子供にとって通うことが楽しみな学校』だと思っている児童が多かったことです。千歳小に通う児童の保護者として、子供たちが楽しく登校していることを嬉しく思います。それも学校が多様な学習スタイルを取り入れられているからだと思いますが保護者にはなかなか伝わっていないことを残念に思います。来年度から土曜授業もなくなると伺っておりますが保護者が学校に訪れる機会が減るなかでどのように関わりを持って行くのか今後の学校の取り組みに期待したいと思います。来年度も継続させていただきますのでどうぞよろしくお願ひいたします」(三田)

「学校生活が楽しいかどうかを問う項目において、児童の学校への意識は大幅に向上している一方で、保護者の肯定的な回答は全体的に低下傾向であることに驚きました。この乖離

の原因はどこにあるのでしょうか。土曜授業の廃止に伴い、これまでのように学校公開を見に来ることができないかたが増えるかもしれません。千歳小学校の先生方の取り組みや、生き生きと過ごす千歳っ子の姿を、保護者や地域の皆さんに届けるために、どのように情報発信していくかを更に工夫していく必要があるように感じます」（持田）

——令和6年度 学校関係者評価委員——

新井 佑彌	元 P T A 会長
五十嵐 治道	上祖師谷ぱる児童館長
石田 博	卒業生、保護者
櫻井 純一	卒業生
島藤 香絵	保護者
中西 茂	星槎大学客員教授
三田 恭代	元 P T A 役員、保護者
持田 直	施設利用者代表